

九州工業大学電波無響室

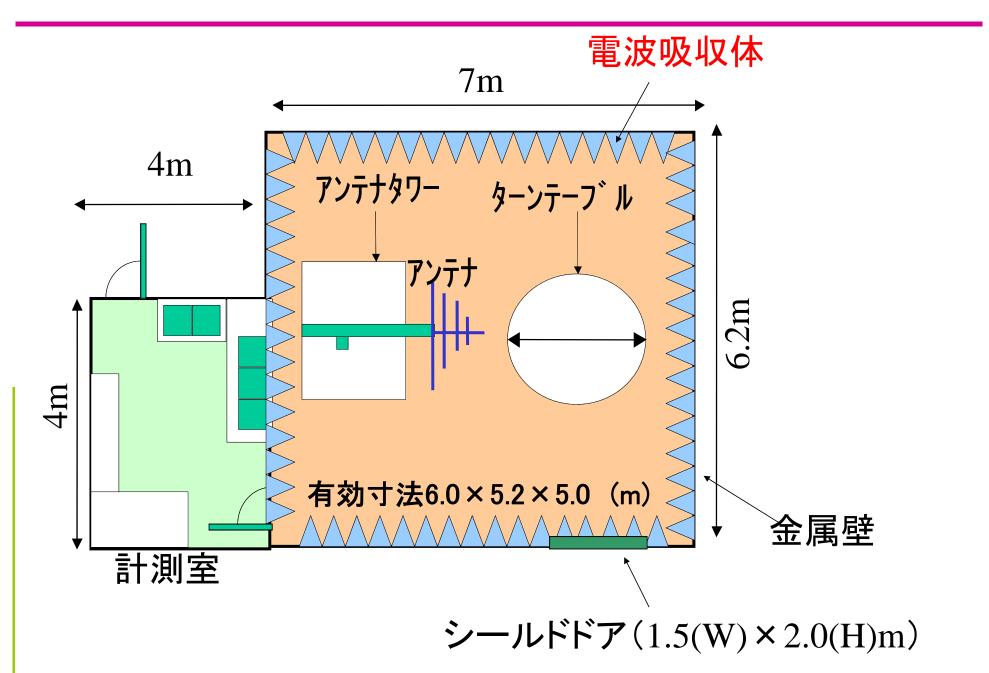
2011年7月21日

九州工業大学大学院工学研究院 電気電子工学研究系

桑原伸夫



電波無響室の構造





シールド特性

建設時の要求仕様

2010年9月時点の結果

壁面

測定法:MIL STD 285

要求仕様:

磁界:10kHz~150kHz(60dB以上)

150kHz~30MHz(80dB以上)

電界:10kHz~150kHz(100dB以上)

150kHz~30MHz(100dB以上)

平面波:30MHz~1GHz(100dB以上)

電源線

測定法:MIL STD 220A

14kHz~150kHz(60dB以上)

150kHz~10GHz(100dB以上)

場所	周波数	評価値
暗室一外部	300MHz	99dB
	1000MHz	108dB
	4900MHz	99dB
暗室一測定室	300MHz	62dB
	1000MHz	106dB
	4900MHz	94dB
測定室一外部	300MHz	92dB
	1000MHz	79dB
	4900MHz	87dB



ターンテーブル



直径:1.5m

荷重:500kg

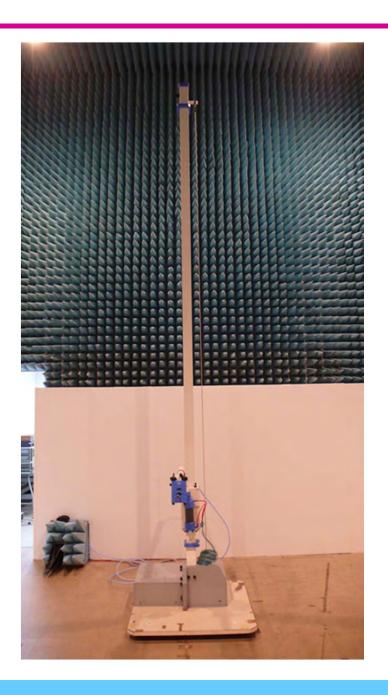
電源: 2φ100V 20A(CVCF),

3φ200V 60A 60Hz

計測室よりリモートコントロール可能



アンテナタワー



材質:FRP

昇降範囲: 1.0~4.0m

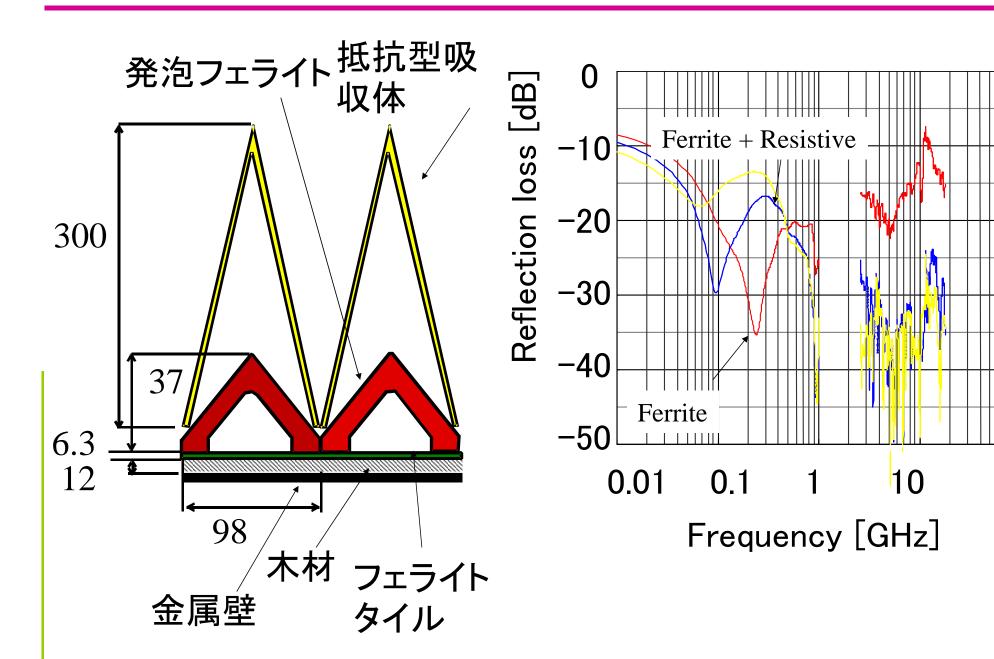
計測室より、アンテナ高、

偏波(水平,垂直)の制御

が可能



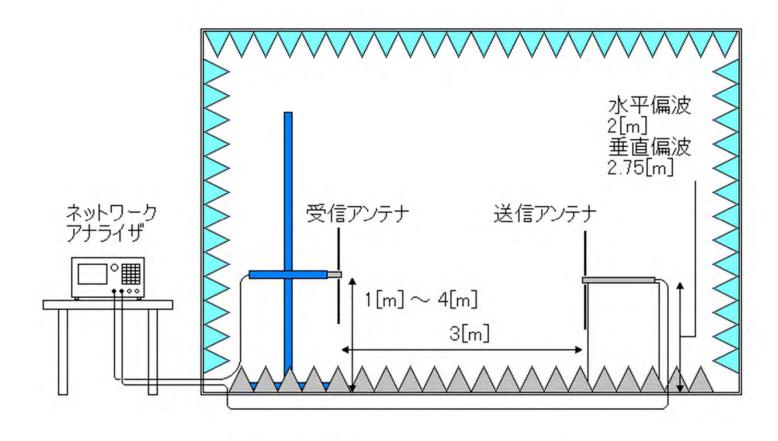
電波吸収体



100



電波伝搬特性(評価方法)



評価方法:正規化サイト減衰量

1)アンテナを対向させて配置して、アンテナ間の伝搬損失を測定

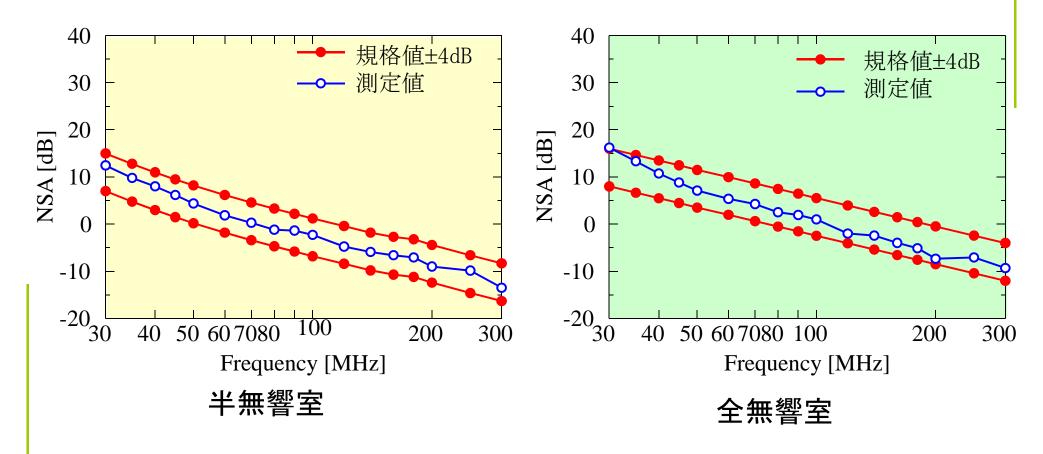
2) 伝搬損失より2本のアンテナのファクタを引く

要求仕様:規格値との偏差±4dB以内



正規化サイト減衰量(30MHz~300MHz)

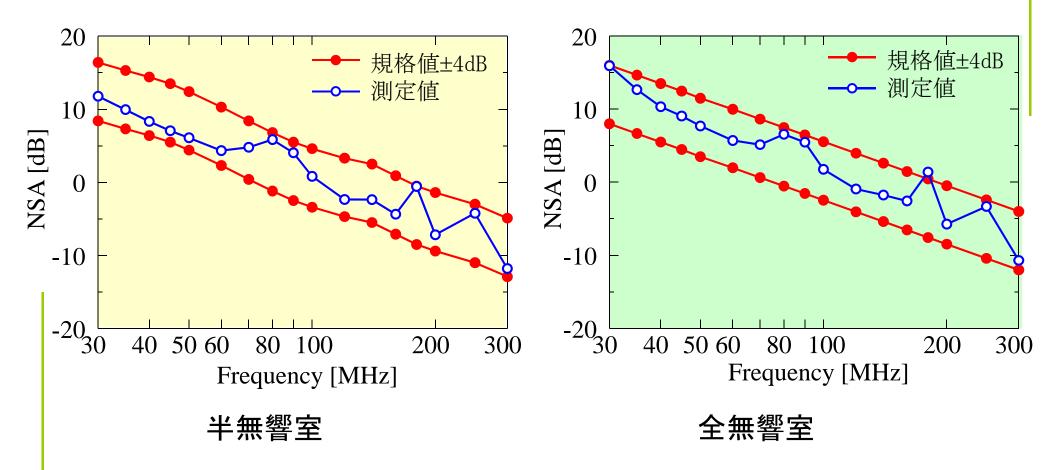
水平偏波





正規化サイト減衰量(30MHz~300MHz)

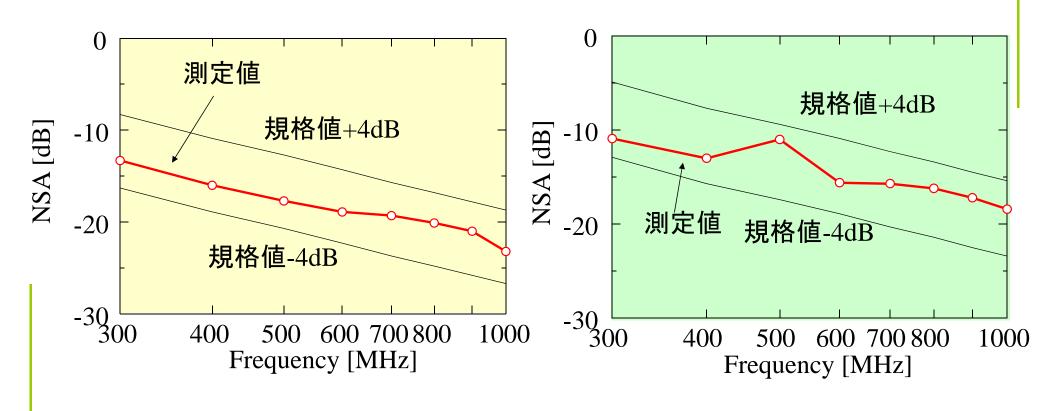
垂直偏波





正規化サイト減衰量(300MHz~1000MHz)

半無響室

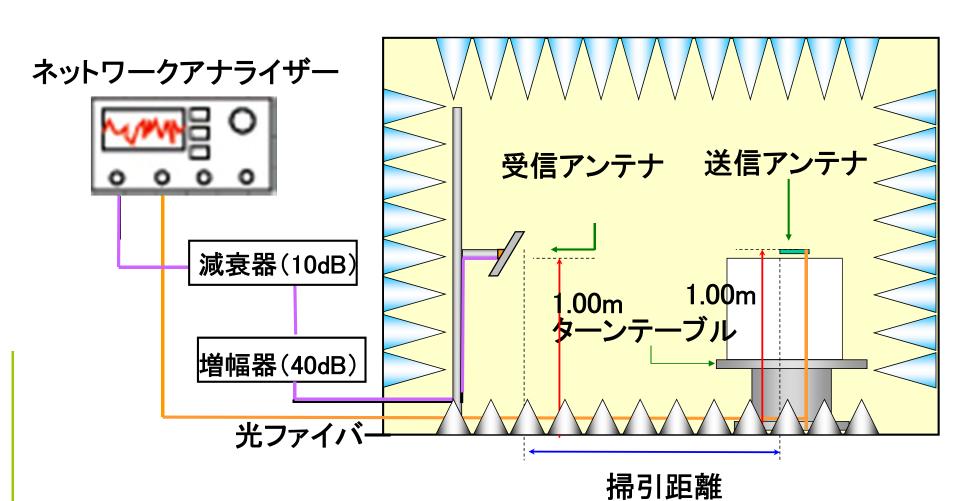


水平偏波

垂直偏波



電波伝搬特性(空間サイトVSWRの評価方法)

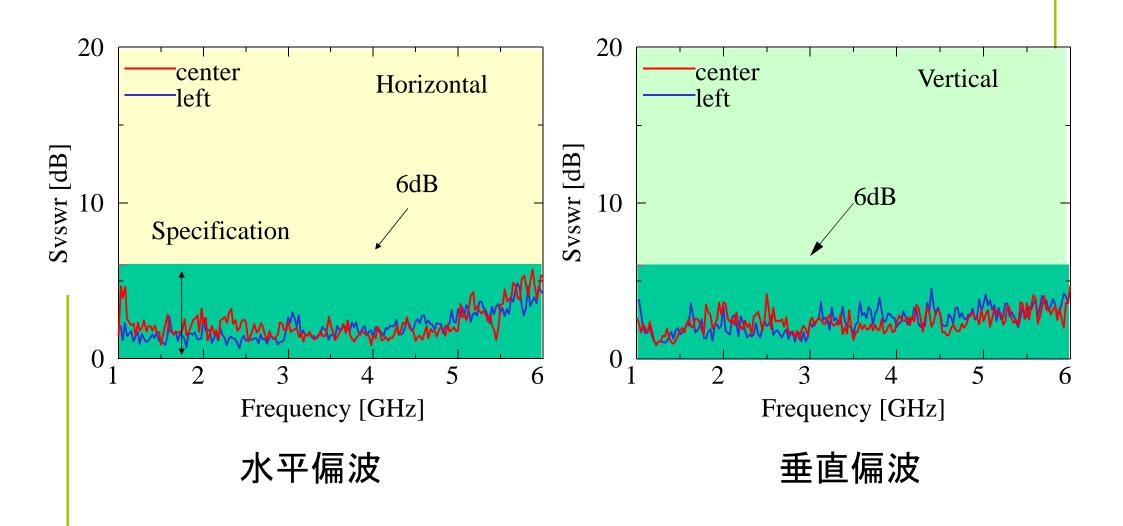


送信アンテナと受信アンテナを対向して配置アンテナ間距離を1cmステップ3~3.4mまで送信アンテナを動かして変化させ、アンテナ間の伝搬損失を測定

伝搬損失の最大値と最小値の比を空間サイトVSWRとする



空間サイトVSWR(1GHz~6GHz)

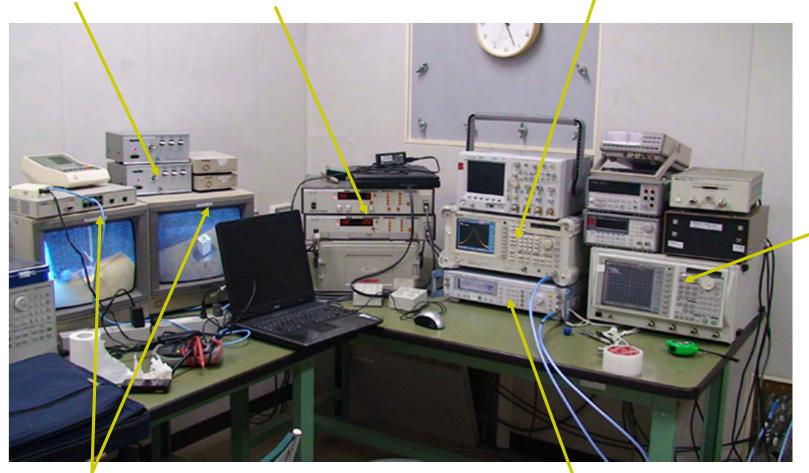




電波無響室の測定器

カメラコント ターンテーブル・アンテナローラー タワーコントローラー

スペクトラムアナライザ (10kHz~28GHz)



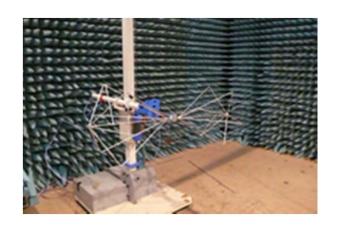
ネットワーク アナライザ

(300kHz~ 8.5GHz)

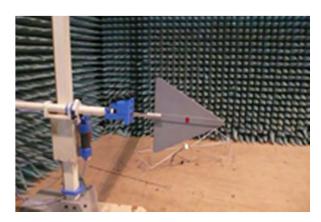
テレビモニタ(無響室内部) 信号発生器(10MHz~20GHz)



電波測定に使用するアンテナ



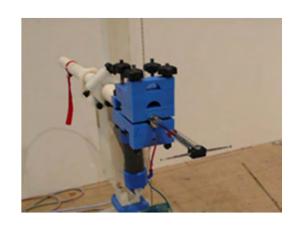
バイコニカルアンテナ (30MHz~300MHz)



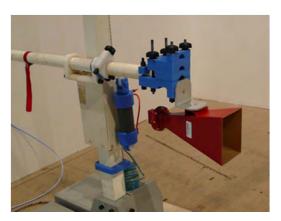
ログペリオディックアンテナ (300MHz~1GHz)



リッジガイドアンテナ (1GHz~18GHz)



同調ダイポールアンテナ (1GH~2.6GHz)



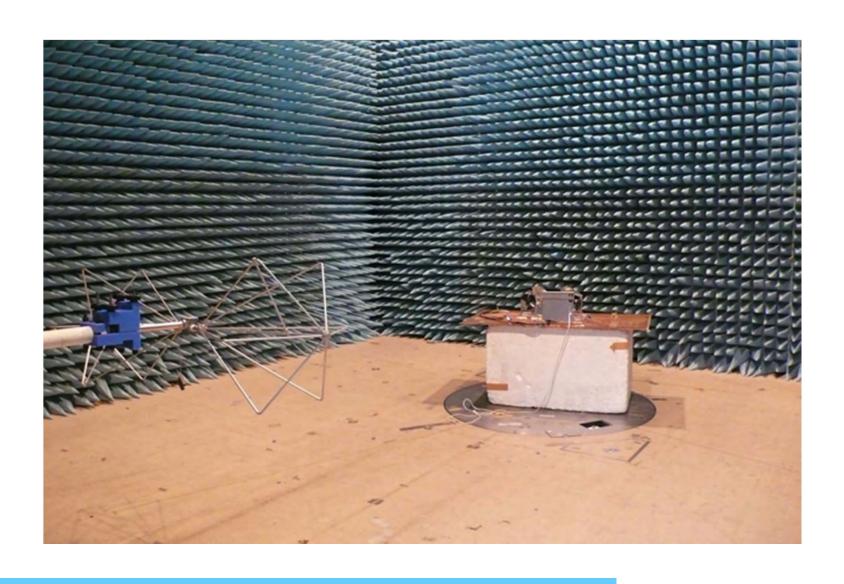
ホーンアンテナ (2.6GHz~18GHz)



半波長ダイポールアンテナ (30MHz~1GHz)

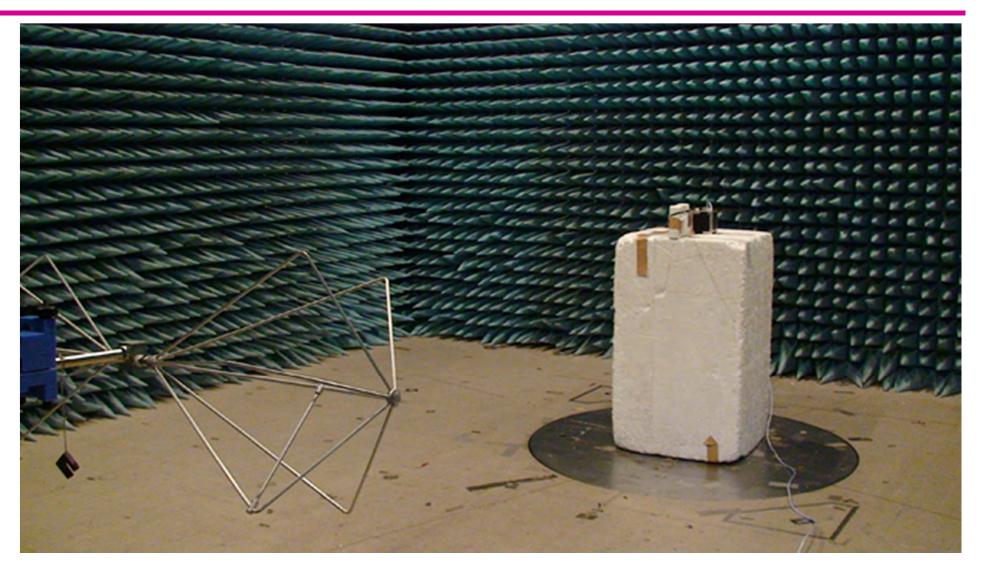


利用例(エミッションの測定)





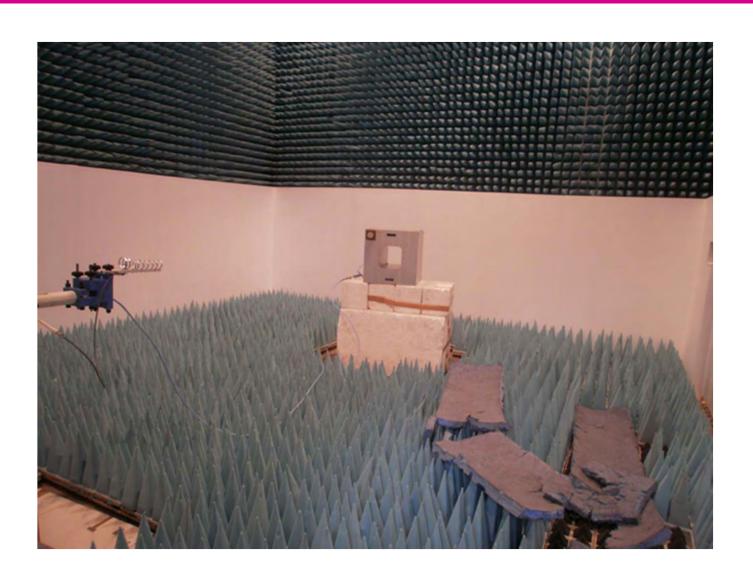
利用例(人工衛星用アンテナの特性測定)



九州工業大学100周年記念衛星「鳳龍1号」のアンテナ特性測定



利用例(人工衛星用アンテナの測定)



九州衛星QSATーEOSのアンテナ特性測定



利用例(人工衛星用アンテナの測定)



高電圧技術実証衛星「鳳龍弐号」のアンテナ特性測定

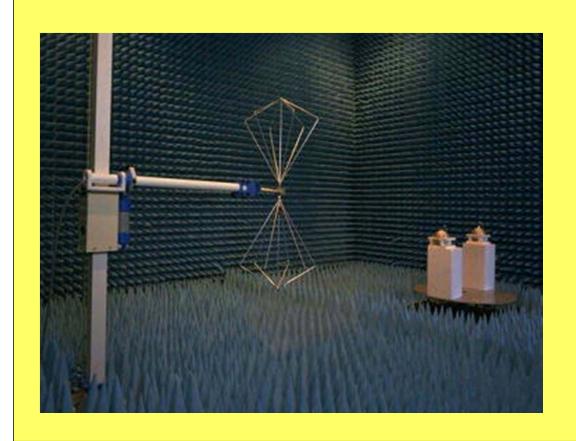


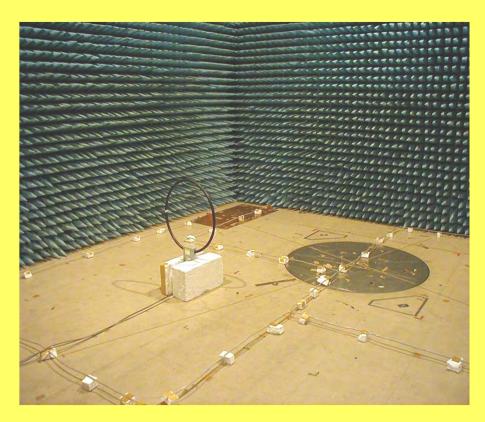
利用例(電波による電力伝送実験)





電波無響室の概要





- 1. 有効寸法:幅5.2m×長さ6.0m×高さ5.0m(5面, 6面)
- 2. 周波数帯域:30MHz~10GHz
- 3. 電波吸収体:抵抗型吸収体+発泡フェライト+フェライトタイル(長さ30cm)
- 4. 全無響室と半無響室として運用